



6月28日号および29日号にてお伝えした欧州、ロシア、インドにおける大規模なサイバー攻撃の混乱につきまして、マースク社およびAPMターミナルは復旧へと向かっております。本号では、各地での大規模サイバー攻撃の続報として現状をお伝えいたします。

1. マースク社のサービス復旧見込み

現地時間の6月27日、欧州を中心に暗号化型ランサムウェア(身代金要求型ウイルス)「PETYA」による大規模サイバー攻撃が確認され、海運大手A・P・モラー・マースク社が運営する世界各地の76のAPMターミナルのシステムに支障が出ました。マースク社HPによると、6月30日にはほぼ全てのAPMターミナルは稼働しており、現地時間の本日7月3日には通常通りのサービス提供が可能となる予定であるとのこと。なお、現在INTTRA等を通して行っている船手配の新規予約サービスも7月3日に復旧する見込みです。

2. 今後の見通し

今回のサイバー攻撃による混乱を受け、米政府ではサイバーセキュリティを確保するための法案が提出される予定です。各地主要ターミナルのみならず、政府レベルでもサイバー攻撃の問題に取り組む動きが見られます。

マースク社およびAPMターミナルは順調に復旧しており、今回の大規模サイバー攻撃による影響が収束したとの最新情報が入りましたら、続報いたします。



本Topicsに関するお問い合わせ、ご意見、ご感想等ございましたら、弊社営業担当までお寄せください。編集にあたっては万全の注意を行っていますが、本Topics情報の正確性を保証するものではなく、これにより生じたいかなる損害に対して弊社は一切の責任を負わないものとします。

船舶・貨物・運送の保険の情報サイト「マリンサイト」

http://www.tokiomarine-nichido.co.jp/hojin/marine_site/index2.html